



削除: 文字列の文字の削除

説明

この命令を使用して、IN 入力パラメータの文字列の一部を削除します。P パラメータで、削除する最初の文字の位置を指定します。削除する文字数は、L パラメータで指定します。残りの部分的な文字列は、(W)STRING フォーマットで OUT 出力パラメータに出力されます。

この命令の実行時に、次のルールを守る必要があります。

- P パラメータの値がゼロ以下の場合、空の文字列が OUT 出力パラメータで出力されます。
- P パラメータの値が、IN 入力の文字列の現在の長さを超える場合、OUT 出力パラメータで入力文字列が返されます。
- L パラメータの値がゼロと等しい場合、OUT 出力パラメータで入力文字列が返されます。
- L パラメータで削除する文字数が IN 入力パラメータの文字列の長さより大きい場合、P パラメータで指定された位置から始まる文字は削除されます。この結果の文字列が出力されます。
- L パラメータの値が負の場合、空の文字列が出力されます。

命令の処理中にエラーが発生し、OUT 出力パラメータが書き込める場合、空の文字列が出力されません。

パラメータ

以下の表に、「DELETE」命令のパラメータを示します。

パラメータ	宣言	データタイプ	メモリ領域	説明
IN	Input	STRING, WSTRING	D、L、または定数	文字列
L	Input	BYTE, INT, SINT, USINT	I、Q、M、D、L、または定数	削除される文字数
P	Input	BYTE, INT, SINT, USINT	I、Q、M、D、L、または定数	削除される最初の文字の位置
OUT	Return	STRING, WSTRING	D、L	結果の文字列

有効なデータタイプに関する追加情報については、「[有効なデータタイプの概要](#)」を参照してください。

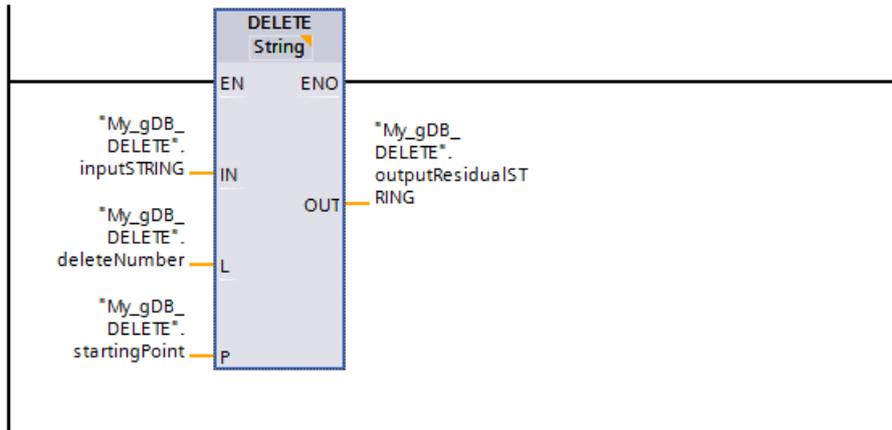
例

次の例では、STRING データタイプの文字列から文字を削除します。

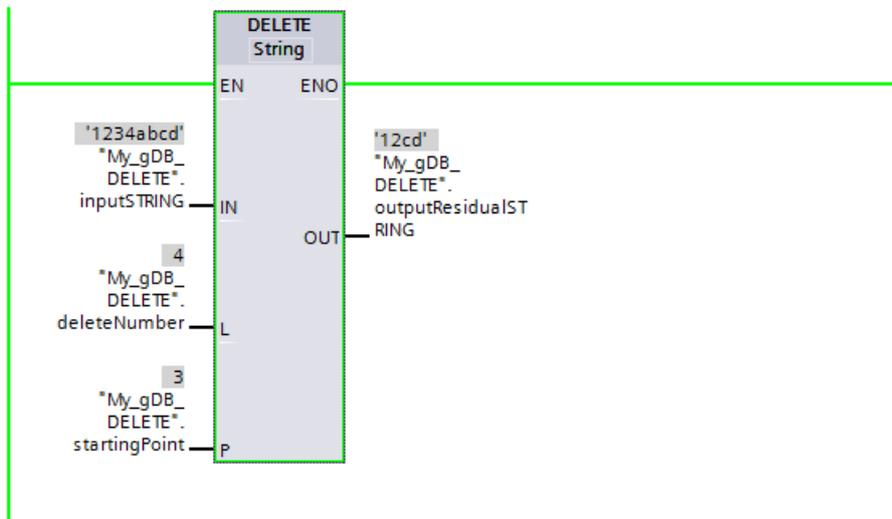
グローバルデータブロックにデータを保存するために、4 つのタグを作成します。

My_gDB_DELETE			
	Name	Data type	Start value
1	Static		
2	inputSTRING	String	'1234abcd'
3	startingPoint	Int	3
4	deleteNumber	Int	4
5	outputResidualSTRING	String	''

この命令のパラメータを以下のように相互接続します。



入力パラメータ L(「deleteNumber」)の値「4」に従って、文字列(「inputSTRING」)の 3 番目の文字(「startingPoint」は値「3」を持つ)から 4 文字を削除します。残りの文字列は、出力パラメータ OUT(「outputResidualSTRING」)に出力されます。



削除: 文字列の文字の削除



説明

この命令は、削除を行います(P 文字(これを含む)から文字列の L 文字)。

- L および/または P がゼロと等しい場合、または P が入力文字列の現在の長さよりも大きい場合、入力文字列が返されます。
- L と P の合計が入力文字列よりも大きい場合、文字列の最後までが削除されます。
- L および/または P が負の場合、空の文字列が返され、ステータスワードのバイナリ結果(BR)ビットが「0」に設定されます。

パラメータ

次の表に、「DELETE」命令のパラメータを示します。パラメータ IN および出力パラメータ RET_VAL には、シンボリックで定義されたタグのみを割り当てることができます。

パラメータ	宣言	データタイプ	メモリ領域	説明
IN	Input	STRING*	D、L	削除を行う STRING タグ
L	Input	INT	I、Q、M、D、L または定数	削除される文字数
P	Input	INT	I、Q、M、D、L または定数	削除される最初の文字の位置
OUT	Return	STRING*	D、L	結果文字列

*一時変数のインターフェース宣言でデータタイプ STRING を使用する場合、文字列の最大長を定義します(詳細については、データタイプの説明を参照)。

有効なデータタイプの詳細については、「[有効なデータタイプの概要](#)」を参照してください。